

地球と日本と人口

近藤 雅雄

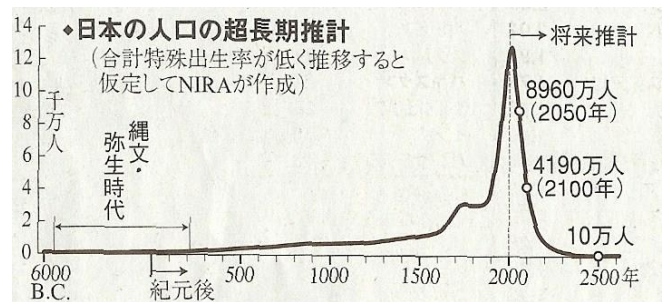
人口増加の問題は、食糧問題、飲料水問題、住む土地の狭小などの侵略の問題、貧困などの格差の問題、地球温暖化、公害、地球資源劣化などの地球環境の問題など、多くの問題を抱えている。一方、人口の減少は国の経済力の低下や防衛の脆弱性や易侵略性を抱え、国として大きな問題となる。特に核攻撃を抑止する方法を持たない島国日本では深刻な問題である。

◆世界の人口ランキング

(米商務省の資料から作成)

順位	国名	1950年	国名	2000年	国名	2050年
1	中国	5億6200万	中国	12億6200万	インド	16億100万
2	インド	3億6900万	インド	10億200万	中国	14億1700万
3	米国	1億5200万	米国	2億8200万	米国	4億2000万
4	ロシア	1億5200万	インドネシア	2億2400万	インドネシア	3億3600万
5	日本	8300万	ブラジル	1億7500万	ナイジェリア	3億700万
6	インドネシア	8200万	ロシア	1億4600万	バングラデシュ	2億7900万
7	ドイツ	6800万	パキスタン	1億4100万	パキスタン	2億6700万
8	ブラジル	5300万	バングラデシュ	1億3000万	ブラジル	2億2800万
9	英国	5000万	日本	1億2600万	コンゴ民主共和国	1億8100万
10	イタリア	4700万	ナイジェリア	1億2300万	メキシコ	1億5300万

地球に住む人間の数は、1950年に25億2,935万であったのが、2000年には2.4倍の61億1,537万人、2050年には91億4,998万人(2010年69億869万人)と年々増加している。特に開発途上国の伸びが著しい。日本では諸外国に比して、減少傾向にある。人口を維持するには、合計特殊出生率が2.08以上必要であるが、日本では1.3前後である。したがって、このまま人口が減少していけば、右図のように2500年後には10万となることが予想されている。日本における人口の減少として、核家族化、少子化、就労女性の増加による晩婚化、未婚率の増加、婚外子の問題などがあげられる。



人口は国力を反映しており、人口の増加と経済成長 (GDP)は関連している。今後は、中国、アメリカ、インドが三大強国として、世界の中心的な役割を担うことが予測される。

日本、中国、スウェーデンの年齢別の人口構成を図に示したが、日本では急速な少子化によって逆ピラミッド型となっているのに対して、中国では持続的の人口増加によるピラミッド型が続いている。スウェーデンでは人口調整が行われており、釣鐘型と安定した構造となっている。

主な国の合計特殊出生率

ニジェール	7.91
イラク	4.83
インド	3.07
南アフリカ	2.80
ブラジル	2.35
米国	2.04
フランス	1.91
オーストラリア	1.75
中国	1.70
英国	1.66
スウェーデン	1.64
ロシア	1.33
ドイツ	1.32
日本	1.29
イタリア	1.28
韓国	1.23

15-19歳で結婚した経験のある女性の比率

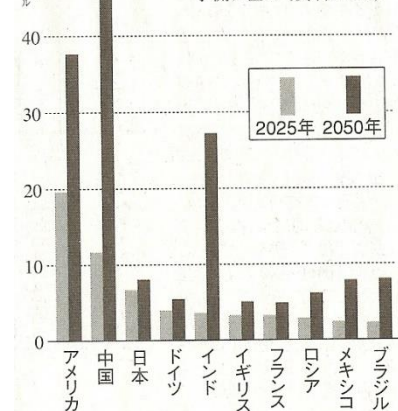
日本	1%
中国	1
米国	4
ロシア	6
インドネシア	13
メキシコ	17
ブラジル	17
パキスタン	21
ナイジェリア	28
インド	30
バングラデシュ	48

国連統計から抜粋。統計を取った年は不定

国連統計(2000~2005年)などを基に作成、中国の数値は香港とマカオを除く

◆主要国の国内総生産 (GDP) 予測

(ゴールドマン・サックス社の予測に基づく資料による)



3 人口ピラミッド (年齢階級別割合)

